

シルバー *Hayama*

会報 3号

仲間と一緒に生涯現役！

目次

植栽班（1班）訪問.....	1
新理事紹介.....	2
事務局便り.....	3
*街角コラム	
「葉山メダカの会」「謎の鏡摺り姫」	

一般社団法人 葉山町シルバー人材センター

〒240-0111 三浦郡葉山町一色 1503-2 TEL. 046-877-1555 FAX. 046-877-1556
E-mail hayama@sjc.ne.jp URL <http://www.hayamasilver.com>

葉山町シルバー人材センターで行っている業務の紹介 第1回

葉山町シルバー人材センターでは生涯現役を合言葉に、葉山町在住の60歳以上の人々を対象に就労機会を提供しています。今号から数回に分けて、就労している現場の紹介を行います。第1回目は当センターの中核で最大の規模（就労人数、受注額）を誇る植栽業務の紹介です。

植栽管理部の組織は下記のようになっています。

植栽管理部

	会員数	主な作業場所 作業		会員数	主な作業場所 作業
団体1班	18名	あじさい公園他町の公園 葉山町の緑地、小中学校 ロフォス、個人宅、植栽全般	団体2班	17名	湘南国際村グリーンパーク 花の木公園等、葉山町の緑地 小中学校、個人宅、植栽全般
個人班	6組 13名	個人宅の剪定、枝おろし、除草	個人グループ	13名	個人宅の植栽、営繕 ワンコインサービス
輸送班	3名	機材運搬、残材処理、掲示板張り	蜂駆除グループ	1名	スズメ蜂、アシナガ蜂の巣駆除

団体1班の作業現場を訪問しました

雨の合間の9月27日（火）の午後、植栽1班の皆様が作業中のそうてつローゼンの現場を訪問しました。当日は7名の会員が作業して居ました。ご存知のように、そうてつローゼンの敷地の中には、蓮の鉢が沢山置かれており、その中や、周りの除草、植木の整備、建物の周囲の除草と、一日、フル作業でした。

暑い中、本当にご苦労様でした。



松本班長に聞きました

シルバー人材への入会動機 現役を退き名古屋から葉山に移って来て、経済的にも、又、交友関係を広げるのを感じ H 社で働き始めたが、1カ月足らずで、ひどい腹痛に襲われ、医者にも無理すると言われ、奥様から当センターを薦められ、色々な人達と知り合えるきっかけにもなると思い2年前に入会しました。**入会して良かった事** 現役時代に商業施設の設計、施工の仕事をやっていた、完成した時に



お客様からありがとうと言われ、喜んでもらえるのが最高でしたが、それと一緒に、ありがとう綺麗になったと言われるのが一番嬉しい。**班長としての心構え** 年下で、経験も浅いので、班長経験者に意見を聞いたり、相談したりしながら運営している。メンバーの体力、得意とする作業、好き嫌い、お客様の性格、等を把握して仕事の割り振りを行うようにしている。率先垂範をモットーにしている。**班長の苦勞** この仕事は天候次第なので、当日の作業の可否は6時に担当者には連絡する。個人宅の依頼も多くスケジュール調整には気を使う。**新会員へのメッセージ** 楽しんでやること、歳や素人だからという言い訳は通用しない。責任感と使命感を持って働いて欲しい。**元気に働ける秘訣** 性格が前向きなので何でもプラスに捉え、失敗しても繰り返さなければ良いと思ってやっている。葉山は善いお客さんが多く、楽しく、気持ちよく仕事ができる。**事務局への要望** 仕事量が多く、人員が足りない状態なので、新規会員の獲得に努めて欲しい。 : お疲れの所、松本班長ご協力ありがとうございました。

葉山メダカの会

メダカのタマゴ

活動紹介

葉山メダカの会は葉山シルバー人材センターととても関係が深いのです。

それは平成十三年七月(二〇〇一―一七)葉山町生きがい事業団時代にグリーンパークの整備中、昼休み時間に調整池で小魚が沢山泳いでいるのを故武田史郎さん・石川十二さん達と発見し、これはメダカではないかと会員の皆さんと話し合いました。

私達は魚に関しては素人でしたので、当時「葉山しおさい博物館」の学芸員・



池田等氏に鑑定して戴きメダカに間違いないことが判明しました。

メダカは平成十一年二月(一九九九―二〇)絶滅危惧種Ⅱ類(絶滅の危険が増大している)に指定されていることも判明しました。

そこで、この調整池にそのまましておいては、このメダカ達が保護できないのではないかと、平成十四年二月故武田史郎さん・石川さんと数人で「葉山メダカの会」を発足しました。早速町役場にお願しいし「花ノ木公園の池」を借りるこ



とができ、この池を中心にメダカの保護活動を始めました。

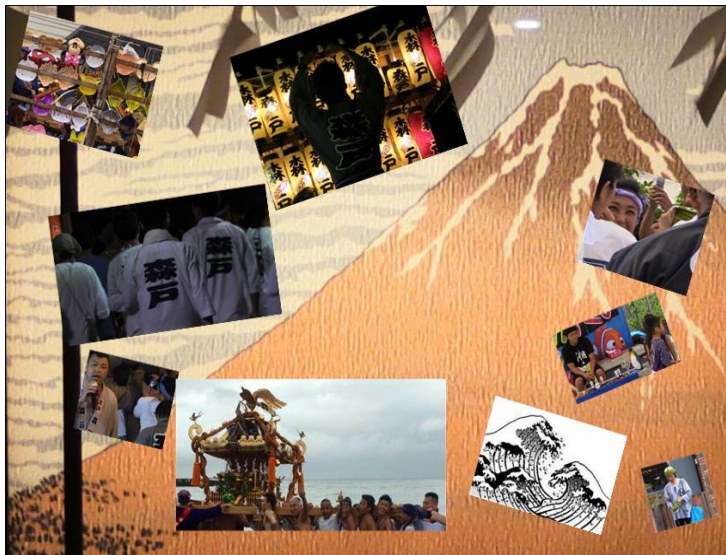
平成二二年十一月日本のメダカ研究の第一人者である、新潟大学酒泉教授にお願しいしD

NA鑑定をして戴きました。その結果、このメダカは相模湾流域の河川のメダカと判明しました。

早いもので、この活動を始めてから十四年目となり会員も小学生から私達のような後期高齢者まで幅広い会員の方々に活動して戴き会員数も四十六名となり、六月は四小学校への出前授業、月に二〜三回土曜日を中心に皆さん活発に活動されています。

保護されているメダカは日本に二種類が生息しており、私達のメダカは南日本集団に属し、学名「オリジアス・ラティピス」と言い通称「ミナミメダカ」と言います、一方富山県・新潟県・福島県から北に棲むメダカは先ほどの酒泉教授の名前が付いた学名「オリジアス・サカイズミ」で「キタメダカ」と呼びます。

(清水理事長Ⅱ文)



森戸の祭り 9/7・8

森戸の周辺を賑わす神輿祭り。今年も盛大におこなわれ、男も女も神輿を担ぎ、力強く氣勢を上げた！



一色町内会盆踊り 7/30・31

一色小学校で大人も子供も盆踊りを一緒に楽しんだ。踊りもスイカ割りも一生の思い出。

事務局便り

葉山デジタル倶楽部のメンバーによって当センターの会報が出されるようになり、今回で第3号となりました。会員の顔写真も登場して、より身近になってきたのではないのでしょうか。配布先は会員のみではなく、近隣のシルバー人材センターや町役場関係、福祉文化会館、図書館、商工会議所などを通じて、町民の皆様にも届くようにしています。また、ホームページにもPDFで載せています。町広報の「かいらんばん」を活用して、新会員募集の説明会も開いています。また、広報が足りていません。会員の皆様のロコミに期待するところ大ですのでよろしくお願いたします。

新理事紹介

氏名 安西 義雄
 入会日 H14年3月
 就業 長者ヶ崎駐車場
 趣味 ゴルフ、カラオケ、酒
 抱負 未来志向で皆と仲良く健康寿命が延びるように元気でやりたい



安西理事

氏名 松本 修
 入会日 H26年5月
 就業 植栽団体1班
 趣味 仕事
 抱負 任務に全力を尽くしたい



松本理事

編集後記

早いですね。今年もカレンダー残り2枚を残すだけとなりました。年々、時の経過が早く感じられるのは、歳のせいでしょうか。

この夏から秋にかけては、葉山も雨に悩まされましたが、東北、北海道の各地では台風が上陸し、大きな被害がでました。台風の進路も従来の常識を超えて、思わぬ地域に被害を及ぼすようになり、野菜の価格の上昇など、直接の被害地だけでなく影響が出ております。

地球規模での気象の変化が起きているのでしょうか「想定外」の事は起きているのだという事を改めて学ばされました。さて、会報3号を発行いたしました。

会報が、会員の皆様と葉山町シルバー人材センターの接着剤になり、会員の皆様、町民の皆様に親しみを携って読んでいただけるよう紙面の充実に向けてまいります。

会報に対する要望や、こんなコーナーを作ったら、こんなことがあったので会報に載せたい等、皆様の声を届けてください。ご協力をお願いいたします。

第3号より会報名を

シルバーHAYAMAに変更しました。

編集委員一同

謎の鐙摺城

～ 誰が・何処で付けたか名の由来 ～



高田順一郎丸

あぶずり 鐙摺の名は

今回は長者ヶ崎から鐙摺へ舞台を移しました。何故かと申しますと歴史があるからです。「鐙摺」は鎌倉時代の裏舞台で、ミステリーな処だからです。

「鐙摺」という地名は源頼朝が、付けた名として伝説的に伝えられています。本当は（許可・賛同）したというのが正しいようです。よく聞く話ですが「馬にまたがり鐙を摺りながら頂上まで登った」から「鐙摺」に

なりました。そんな訳で筆者も「葉山郷土史・創刊号の鐙摺編」を持って調べに行きました。さて、地名の由来ですが、「吾妻鏡」（1180年）や「源平盛衰記」（1161年）に鐙摺の名が出てきます。そこには「源頼朝が鎌倉幕府設立に際し、貢献した三浦一族の出城や館があった」と記されているのです。



この時に現れ、今では「あぶずり」と呼ばれています。しかし、過去には幾つかの呼び名がありました。幾つかあげますと「あぶずり・あぶづる・あぶする・あぶずり・あぶする・あぶみずり」の呼び名があり、時代の洗礼の激しさを感じさせます。（1685）年の

「鎌倉誌（志）」には一旦「アブスリ」と統一されたようですが、その後、昭和初期になると、幾通りかの名がまた復活してしまします。

地名を解する書「難解地名辞典」には、「三浦へ訪れる際に、この鐙摺で、命名するきっかけになったとあります。この時のエピソードが

「あぶずり」の呼び名は、この時に現れ、今では「あぶずり」と呼ばれています。しかし、過去には幾つかの呼び名がありました。幾つかあげますと「あぶずり・あぶづる・あぶする・あぶずり・あぶする・あぶみずり」の呼び名があり、時代の洗礼の激しさを感じさせます。（1685）年の

「鎌倉誌（志）」には一旦「アブスリ」と統一されたようですが、その後、昭和初期になると、幾通りかの名がまた復活してしまします。

「あぶずり」の呼び名は、この時に現れ、今では「あぶずり」と呼ばれています。しかし、過去には幾つかの呼び名がありました。幾つかあげますと「あぶずり・あぶづる・あぶする・あぶずり・あぶする・あぶみずり」の呼び名があり、時代の洗礼の激しさを感じさせます。（1685）年の

「あぶずり」の呼び名は、この時に現れ、今では「あぶずり」と呼ばれています。しかし、過去には幾つかの呼び名がありました。幾つかあげますと「あぶずり・あぶづる・あぶする・あぶずり・あぶする・あぶみずり」の呼び名があり、時代の洗礼の激しさを感じさせます。（1685）年の

「あぶずり」の呼び名は、この時に現れ、今では「あぶずり」と呼ばれています。しかし、過去には幾つかの呼び名がありました。幾つかあげますと「あぶずり・あぶづる・あぶする・あぶずり・あぶする・あぶみずり」の呼び名があり、時代の洗礼の激しさを感じさせます。（1685）年の

「あぶずり」の呼び名は、この時に現れ、今では「あぶずり」と呼ばれています。しかし、過去には幾つかの呼び名がありました。幾つかあげますと「あぶずり・あぶづる・あぶする・あぶずり・あぶする・あぶみずり」の呼び名があり、時代の洗礼の激しさを感じさせます。（1685）年の

「あぶずり」の呼び名は、この時に現れ、今では「あぶずり」と呼ばれています。しかし、過去には幾つかの呼び名がありました。幾つかあげますと「あぶずり・あぶづる・あぶする・あぶずり・あぶする・あぶみずり」の呼び名があり、時代の洗礼の激しさを感じさせます。（1685）年の

バス停に残るのみですが、頼朝伝説から生まれたとされる鐙摺は（1177年）頼朝が伊豆流罪中、三浦へ訪れる際に、この鐙摺で、命名するきっかけになったとあります。この時のエピソードが

会話の閃き

あります。『三浦三郎為清・大田原三郎義久・真田与一義忠が源頼朝を迎えた時、千尋の絶壁（田越川河口・なぎさ珈琲から古川電工保養所を超えて小浜まで）と隘路の、切り通し近くで、頼朝が「ここは何処か」と聞きます。為清は「鎌倉から三浦の方へ鶴が鳴き乍ら飛びましたので



鳴鶴ヶ崎といった」とあります。その後、一行は山峡（切り通し）の義久の館（現・柳屋旅館隣り）で休憩をとり、義久は頼朝に見て欲しかった物があり、眼前の小山を指さします。「あれは、父、義明からこの場所に出城を築け」と言われた事を話します。これは後に山の名として「鐙摺城?・丸山・旗立山・軍見山」という名がつかます。

現地では丸山とも呼んでいるようですが、この名は元からある名のようなです。「旗立山」（1180）年頃、三浦郡と畠山軍が小競り合いをした際に、勝者が「小山」に旗を立てたと言われます。軍見山は（1512）年頃の戦国初期に北条早雲に敗れた三浦一族が使った名であるらしい。

筆者は早速、日陰茶屋の駐車場横にある急階段から登って見たところ確

筆者は早速、日陰茶屋の駐車場横にある急階段から登って見たところ確

筆者は早速、日陰茶屋の駐車場横にある急階段から登って見たところ確

かに、素晴らしい眺めです。高さ23メートルの山です。此処は城であり、見張り台に適していると痛感！ですが、しかし、城としては余りにも小さ過ぎる。精々、たて坪、三十畳の広さの平屋の別荘かオシャレた居酒屋であれば十分な広さで、城があったとするには無理がありすぎると思いました。



前述したように、この山へ、義久は頼朝一行を案内し「馬にまたがり鏡を摺りながら頂上まで登った」とあります。この貧相な山のどこが城なのかと…？

「それはいい思い付き！」と言って、「鏡摺と鏡摺城」の名はその場で決まってしまった…？

そして、義久は「頼朝に、この一帯の名である大磯は、相模川右岸（平塚）にも同じ名があるの

話が閃めきを産んだ訳ですが、この名はそのまま現在へと伝えられました。筆者はこの鏡摺周辺の

で、地名を変えては」と尋ねる。与一が脇から

お店に飛び込み、聞き込みを試みました。飛び込んだ先は運良く、鎌倉時代（800年前）から続く家系の子孫（s・y氏）

「我ら一同が馬で、鏡を摺り小山を登りましたので、鏡摺はいかがですか」と提案をしますと、頼朝

はでてこないのです。この一帯を地図やネットでも調べても、不思議にも鏡摺山とか鏡摺城の名

「郷土史・鏡摺編」にも、各研究者の言葉には『「鏡摺」「鏡摺山」「鏡摺城」それは何処か？』研究者も特定するの

筆者もかなり困惑しながらも、この「浅間山」と「鏡摺山」は日陰茶屋の裏方にある山々だとすると考えが違ってきます

てきた結果とも言えるのではないのでしょうか？話を戻しますが、頼朝という人物は用心深く丘陵の谷を馬で登ったり、

（現）柳屋旅館の隣に（本家）鈴木家があり、その鈴木家に代々伝わる義久の館跡の板や柱等が残っていると聞かれています

古文書からの記載には「浅間山・鏡摺山」の名も出てきて、更にこの辺りには「鏡摺谷」「小浜谷」「根岸谷」の名も

は、堀内の東にある「仙元山」（標高108メートル）をモチーフにし、何らかの影響があつて入れ替わった節があるので

降りたりする性格（義経とは違う）ではないようです。その事も考慮すれば、頼朝が登った山は

「旗立山・軍見山」ではなく「浅間山・鏡摺山」ではないかと。

も現存する城跡の名残です。これはどういう訳でしょうか。旗立山の反対側に日陰茶屋本館があります

（中央大学寮のある方面）が該当する場所ではないかと直感しました。

「鏡を摺り登った山」は「浅間山」鏡摺山だと考えますが……落着いて、この辺で名の由来から鏡摺のドラマへと切り替えます。

頼朝が伊豆流罪中の、身の前という女性を逗子小坪に呼び寄せた事がばれて仕舞います。この事が物騒げな事件へと発展

「浅間山」はあまり何処かとは分らないようです。「鏡摺山は旗立山を言い、鏡摺城も旗立山？」と地元の方もはつきりとは…

「浅間山」はあまり何処かとは分らないようです。「鏡摺山は旗立山を言い、鏡摺城も旗立山？」と地元の方もはつきりとは…

頼朝が伊豆流罪中の、身の前という女性を逗子小坪に呼び寄せた事がばれて仕舞います。この事が物騒げな事件へと発展

「浅間山」はあまり何処かとは分らないようです。「鏡摺山は旗立山を言い、鏡摺城も旗立山？」と地元の方もはつきりとは…

「浅間山」はあまり何処かとは分らないようです。「鏡摺山は旗立山を言い、鏡摺城も旗立山？」と地元の方もはつきりとは…

「浅間山」はあまり何処かとは分らないようです。「鏡摺山は旗立山を言い、鏡摺城も旗立山？」と地元の方もはつきりとは…

頼朝が伊豆流罪中の、身の前という女性を逗子小坪に呼び寄せた事がばれて仕舞います。この事が物騒げな事件へと発展

「浅間山」はあまり何処かとは分らないようです。「鏡摺山は旗立山を言い、鏡摺城も旗立山？」と地元の方もはつきりとは…

